

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 松江市立法吉小学校 ～

1. 概要

7月4日(火)、松江市立法吉小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、法吉小学校周辺の遺跡について、スライドやプリント等を用いて学習しました。自分たちの通う学校の周辺にはたくさんの遺跡があること知り、地元の歴史の理解が深まりました。次に、土器についての学習を行いました。まず、土器の種類や用途、作り方などをスライドで学び、その後に粘土を使って実際に土器づくりを行いました。なかなか思うように形を作ることができず大変でしたが、体験をとおして土器づくりの大切さや、縄文人や弥生人達の技術力の高さを学ぶことができました。

2. 様子

1) 法吉小学校周辺の遺跡について理解を深める。



「法吉小学校の周りにもこんなにたくさん遺跡があったんだ！」

2) 土器づくりに挑戦



「どんな土器をつくらうかな…」



少しずつ形ができてきました

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・もつといろんな土器を見てみたり、古墳を見てみたい。
- ・こんどは土器をやくところまでやりたい。
- ・難しい土器をどうやって作っていたんだろうかを知りたい。
- ・島根県古墳をもつと知りたい。
- ・昔の人のアクセサリーをつくる体験をやってみたい。
- ・昔の人は作るのがこんなに大変な土器を作っていたんだなと感心した。
- ・世界の遺跡の数を知りたい。
- ・紹介してもらった遺跡は「何年前のもので」と話しておられたが、何年前ということは、どういう証から分かるか知りたい。

2) 担任の先生から…

- ・地域や社会科の学習にホットなタイミングで学べてよかった。
- ・今回のように実際に土器を持ってきていただくと子供もイメージがわきやすいと思う。
- ・身近な遺跡についての説明の時間がもう少しとれるとよかった。

3) 埋文センターから

法吉小学校周辺の遺跡学習では、全員が熱心に耳を傾けていて、自分たちの身近にもたくさんの遺跡があり、地域の歴史を知る上で遺跡がとても大切なものであることを、しっかり理解してくれていた様子でした。土器づくりでは、なかなか思い通りの形が作れず、多くの児童が苦戦していたようですが、後半にはコツをつかんだ子もみられ、ユニークな土器を作り上げていました。土器づくりの困難さを体験した後で、改めて実物の土器を見てみると、その技術の高さに驚き、感心していました。